
死に損ない高校生活（ハイスクール）

和揺 露時

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死に損ない^{ハイスクール}高校生活

【Nコード】

N8182Q

【作者名】

和揺 落時

【あらすじ】

世界は死人で満ちている。だからどうしたと言う話なのだけれど、それはどうしようもなく事実である。毎日何人も死んで、何人も生まれて。それはなんだか、恐ろしい気がしてならない。なぜなら、ぼくらは――――――

入学葬式（前書き）

始めまして（？）、和揺です。

死に損ないどもの物語、どうぞ一読していたださい。

入学葬式

この世には、人の死があふれている。

当たり前のように人々は死に、必然のごとく誰も知らない。

世界の裏側で誰が死のうがどうでも良くて、そしてついでに親しくない隣近所の人が死んでもどうでも良い。

そんな当たり前前の事実を、ぼくらは何度も目の前に叩きつけられてきた。

「えーと。つまり、君はなにが言いたいの？」

「それに答える義務はありません」

「いや、話しかけてきたのは君なんだから答えてくれないかなあ！？」

きつと言わなくても分かるのだろう。

このウゼエ先輩もまた、被害者であり加害者であるのだ。

「なにその悟りきった顔！？ 凄いイラッとする！！」

「うるせえなくS…もとい、クズ先輩」

「いや、言い換えた意味無いから！？ なにそのやりきった顔！！」

さっきっからこの先輩、叫びっぱなしである。

そんな荒ぶる先輩に不覚にも無意識に偶然そこに居たから相談した
ぼくは、結論を告げる。

「ぼくの葬式。友達だと思ってた奴が、ほとんど来てなかったんで
すよね。かなりへこみます」

「……………きつつう」

ぼくはそう、この目の前に居る先輩のように。
ぼくらは既に、法的には死んでしまっている。

「まさか、自分の葬式を自分の目で確認できるとか、そんな機会は
ありえて欲しくなかったんですよね」

「私も、流石にそればかりは同意せざるおえないね・・・」

ぼくらは法的には死んでいる。まあ、言い換えれば

「ぼく達って、社会的に死んじゃってるんですよ、変態先輩」

「その言い方だと、まるでなんかやっちゃった変態じゃない！」

「え？ 違ったんですか？」

「違うよ！？ 私に変な属性付けないで！？」

「いちいち叫ぶときに、語尾の音程上げるのウザイ」

「もう立ち直れない・・・」

「そんなドM先輩は嫌いです」

「えー！？ そこは好きですって言うべきじゃないの！？」

流石に付き合っても居ない奴にそんな事言えるわけがない、という
か。

他に付き合っている人が居るくせに、この先輩は何をおぼざきにな
っているのだろうか。

「で、変態先輩」

「その呼称を変えて欲しいよ！」

「え？　じゃあ、祝国^{のりくに}先輩」

「今度は普通！！」

注文の多い先輩だなあ……。正直、名字で呼ぶと影向^{かげなた}先輩に怒られそうで嫌なんだけどなあ……。後輩甲斐のない(?)祝国先輩と雑談しつつ、後ろを振り向いてつぶやく。

「さて、オープニングはここまでだ。それでは――――」

笑顔のゾンビの物語を、紡ごうではないか。

「おい、七門^{ななかど}君。授業始まるよー」

「はい、わかりましたー」

入学葬式（後書き）

登場人物達は、後ほど。

生徒目録

七門 総治 性別…男性 年齢…16
ななかど そうじ 死因…絞殺 加害者…部活の先輩

一言…「豆腐の角に右足の小指をジャンピング土下座をしながらぶつけた後おもむろに 立ち上がって逆立ちしながら笑ってください」

とある剣道の道場の跡取り息子だった少年。

礼儀正しい態度をするくせに、人をからかう事がこの世で3番目に好き。悪趣味である。

容姿は、中の上と言われる程度にはある顔で、背丈は170台で細身。

生前は敬語を使いながら相手を見下す様な、慇懃無礼な性格で、先輩から恨みを買ってしまい、紐で首を絞められて死んだ。それを自覚したから、今度はからかう程度に無礼な態度で生きて行こうと思っている。

能力名は、絶望。対象が味わった事のある挫折や苦難、理不尽をフラッシュバックさせる、生前の性格の悪さを表した能力である。

影向 結斗

性別…男性

年齢…16

かげなた ゆいと

死因…焼死

加害者…あえて言うなら自分

一言…「ツンデレじゃねーよ！」

とある元陰陽師家の跡取りだった少年。

七門家とは少なからず縁がある。というか、七門家の分家のひとつに当たるのが影向家なのである。

にもかかわらず、七門党首予定だった総治に対して態度が悪いのは、仕様である。いや、実際はもう関係ないから、と言う事実故なのだが。

誰に対しても分け隔てなく態度が悪い。彼女である胡焉に対しても態度が悪い。しかし、優しい。

容姿は上の中、と言ったところ。背格好もとてもいい。イケメン乙、と総治にはよく言われる。

生前から変わらず態度が悪く、しかし優しくしっかりしていたのでカリスマ的な人気があった。しかしその死に様はかなり哀れで、料理をしていたらボヤが発生していて、焦げ臭さに気づかず火に巻き込まれて死亡、と言うんだか他の奴らに比べると微妙すぎる死に方だった。

能力は不屈。自分が健康な状態から、悪い意味でかけ離れていれはいるほど、生物が本来持つ強さが強化されていく。焼死にもかかわらず火傷がないのはこの能力のおかげである。

祝国 胡焉 性別…女性 年齢…17
のりくに ごえん 死因…爆死 加害者…テロリスト

一言…「変態でも淑女でもないです。しいて言うならただの”婦女子”です。腐ってなんかいません！」

とある普通の家庭の次女だった少女。

変態でツツコミ属性もち。下ネタではない。変態の癖に常識人。

容姿は普通。髪はショートで結んでいない。スタイルも普通。思考と嗜好は変態。

生前はとくに目立つこともなく普通に生きていたし普通に死ぬ予定だったのに、なんかいきなりテロリストが来て学校を爆破した。ちなみに彼女の葬式には誰も来なかったのではなく、誰も来れなかった、が正しい。皆爆発に巻き込まれたようだ。

能力は、暴露。彼女が能力を発動すると、誰もが考えている事を口から出してしまう。彼女自身も。その際のセリフのせいで、見事変態の称号獲得をはたした。

東贄 皆奈 性別…女性 年齢…18

あずまにえ かいな 死因…轢死 加害者…バスの運転手

一言…「ひとつだけ願いがかなうなら、ありとあるゆる世界が見たいね」

とある旅行好きの学生だった少女。

能力は夢渡り。

生徒目録（後書き）

随時追加します

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8182q/>

死に損ない高校生活（ハイスクール）

2011年10月8日07時10分発行